

## 令和5年所信

昨年は、新型コロナウイルス感染拡大の第6波、7波、8波と言われる大きな感染の波が押し寄せる中で、引き続き感染予防対策と社会経済活動の両立に迫られる年となりました。

しかし、私たちの生活も、よりアップデートされウィズコロナという言葉が実態を伴うものへと変化していきました。

昨年10月には全国旅行支援が実施され、国内客に加えてインバウンドの入国規制も緩和されたことから、旅行者や宿泊者の数がコロナ禍以前の水準に戻りつつあります。

別府市においても、PCR検査センターの開設期間延長など、感染拡大防止対策を行いつつ、3年ぶりとなる大規模イベントを開催してまいりました。

春の「別府八湯温泉まつり」に始まり、「一気登山大会」、「別府アルゲリッチ音楽祭」、夏の「火の海まつり」、秋の「マーチングカーニバル」、そして冬の「クリスマスファンタジア」といった別府を代表する恒例のイベントで市民の皆様や観光客の方々の笑顔を見られたことは、コロナ禍の終息に向けた大きな一歩であったと思います。

また昨年は、ロシアの軍事侵攻により国外への避難を余儀なくされた25名のウクライナの避難民の方々を受け入れました。

避難民の方々が少しでも早く別府での生活に慣れるよう、行政だけでなく、市民の皆様や事業者の皆様にも多くのご支援をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。避難民の方々も別府市民として新たな生活に向け日々努力しておられます。引き続き、温かく見守っていただければと思います。

いよいよ、別府の新しい一年が始まります。

今年は卯年です。ウサギは安全の象徴であると同時に、その跳躍力から飛躍・向上を意味します。この3年間、深く膝を折りたたみ、高く飛びあがる準備は万全です。希望溢れる景色がもうすぐ目の前に広がっています。

今年はウィズコロナのラスト、アフターコロナ元年になると確信しています。別府にとっては久しぶりの「フルスイング」の年といえます。行政運営も観光も、スタートダッシュを決めます。

まず行政組織の機構改革からです。

4月1日に「こども部」を創設します。行政の縦割りを廃し、子どもに対する様々な課題をワンストップで取り組む体制を作り、「こどもまんなか社会」を実現します。

また福祉の重層的支援に向けた「総合窓口」を同じく4月から設置いたします。

9月には、市営温泉プール跡地に学校給食センターを整備し、市内の小中学校に給食の提供を開始します。味はもちろんのこと、子どもたちの健やかな成長に欠かすことのできない、心にもからだにもおいしい「日本一おいしい給食」の提供をめざします。

そして将来的には、別府の「食」、つまり第一次産業の振興と併せ、学校給食で使用する食材のほとんどを市内で生産し、提供できる体制を整備したいと考えています。その実現こそ、観光の4本柱の一つでもある「食と観光」の推進にも繋がります。

同時に、山の手小学校の調理場を食物アレルギー対応給食調理場に改修します。栄養教諭、学校、保護者が密接に連携をとり、各小中学校のアレルギー対応が必要な児童・生徒たちに安全・安心な食物アレルギー対応給食を届けます。

また、昨年10月から実施している給食費の補助につきましては、子育て世代の経済的負担の軽減と、移住・定住を促進する施策の一つとして、令和5年度以降も継続できるようにいたします。

子どもたちの熱中症対策、避難所の環境改善対策として、小中学校の体育館をはじめとする計26の施設に空調を整備します。子どもたちはもちろんのこと、地域の会議やイベントなど、市民の皆様の様々な活動が、より快適に行える環境を整備します。全ての公立小中学校体育館の空調整備は、大分県内では初めての取組です。

昨年6月、別府市立図書館は、開館100周年を迎えました。

これまでの歴史を継承し、次の100年に繋げる新図書館は、別府公園の豊かな自然と、たくさんの本に囲まれ、人や情報、自然とつながり、別府公園全体が図書館のように感じられる計画となっています。

また、敷地となる別府公園文化ゾーンの西側に、地域の歴史を未来へつなぐ図書館の「地域・郷土資料分館」として、特に温泉に特化した資料を展示するための別棟を整備いたします。

別府温泉は、明治中期から昭和初期にかけて日本最大の温泉町へと発展しました。この時期に出版され別府温泉を全国に広めた書籍や雑誌、絵葉書、また、別府温泉発展の礎となった温泉関連資料など、ここにしかない貴重な資料を展示する計画です。

伝統、歴史、文化を磨き、この町で暮らす皆様、この町で生まれ育つ子どもたちが誇りに感じてもらえるよう、また、温泉をはじめとする地域・郷土資料を「いつでも、だれでも、いつまでも」ご利用いただけるよう、令和7年度の開館に向けて引き続き新図書館整備事業を進めてまいります。

市民の皆様の心と身体の健康を守り、新たな変異株の動向や状況を注意深く見守りながら、別府観光の完全復活へ向けて、観光の4本柱「ユニバーサルツーリズム」「観光DX」「免疫力日本一宣言」「食×観光」をしっかりと形にして、稼ぐ別府、儲かる別府の実現を進めてまいります。

なかでも「免疫力日本一宣言」に関しては、これからの別府発展の中核となる事業「新湯治・ウェルネスツーリズム」の根幹をなすものです。別府市全体で稼いだお金を、教育、福祉など、目に見えるかたちで市民の皆様に還元してまいります。

コロナ禍の中、市民の皆様との協働によって、ひとまもり・まちまもり協議会を中心とする将来に向けた地域主体のまちづくりを進めてまいりました。

重要課題の解決や施策の実現には、市民の皆様との協働・連携が不可欠です。

「全ての施策の目的は市民の幸せのため」ということを共有しながら、持続可能で夢や希望を持てる素敵な別府を後世に引き継げるよう、市民の皆様に寄り添った取組を加速させてまいります。